

アマダイ通信 NO. 77b

(Tile fish network letter)

2010年春、震災つ

知人・友人各位

政権交代で日本の政治も新しいステージにと期待したが、目の前の運河の霞のように、民主党の政治資金疑惑がたなびき、支持を失った自民党は審議拒否。攻守所を変えただけでは日本は救われない。いつから党内民主主義を失い民主党は共産党になったのか？小沢一郎はスターリンになったのか？霧笛を聞きながら、陽光で霧が消えるのを待とう。「維新」は一日にしてならず。

◎更に母校に7300万円(10年間)寄付！？

昨年、協力先の電源開発(株)のリスクと費用で東大病院の非常用古井戸をリニューアル、膜濾過による浄化設備を設け、井戸水を高度処理、飲用水を安く供給することで、年間3千万円、10年契約で3億円、大学の経費を削減、水道のインフラを二重化し、セキュリティの向上にも貢献出来たと、本誌上で報告。この度、第二弾として白金の東大医科学研究所の古井戸をリニューアル、地下100メートル以上の深井戸から揚水、年間処理量5万トン、使用水量の40パーセントを井戸水で賄う浄水施設を電源開発が設備、10年契約で水道料金を年間730万円削減、併せて水源を二重化、セキュリティを高める。毎年1%経常経費削減が続く国立大学に、経費削減で貢献。災害時に避難場所とも、治療拠点ともなる大学と付属病院のインフラの二重化は、災害時に大いに力を発揮するでしょう。

当初、東大病院の次は三鷹寮一年先輩の牟田さんが経営担当副学長の東工大で貢献を！と意気込むが、設備改修の際は貯水槽の耐震性を強化せよとの横浜市規制で、東工大長津田キャンパスより母校の医科研が先になる。牟田先輩にはもう少し時間を頂きたい。東大には本郷と駒場にもう一本ずつ古井戸があり、更に貢献できればと思います。三鷹寮後輩の生源寺学部長の農学部にも古井戸がある筈が、埋められていて、災害時一時避難場所なのに水を供給できないとわかる。工業用水を大量に汲み上げ、地盤沈下を起こした水不足時代の汲み上げ規制がそのまま残り、新規井戸掘り原則禁止の東京だが、どうにかならないか知恵を絞りたい。

地下水位の上昇で東京駅や上野駅が水抜きやアンカーで駅舎を固定する事態まで起きているのに、旧態依然の規制が続く東京。他方、新たな井戸の掘削が可能な京都の京都駅ビルでは、飲用水の3割、18万立米を井水でまかない年間3千6百万円の水道料金を削減、今回、更にトイレの洗浄などに使う中水用井戸を新たに掘り、中水の5割を井水に置き換えることで、年間4千万円削減。1期、2期併せ年間7千6百万円削減し、災害時、公共水道がストップした場合も、京都駅ビルでは水洗トイレもウオシュレットも！使用できます。

ハツ場ダムのように、住民の生活と環境を破壊して山間部にダムを作り、水質の悪化した水を遠くから引いて大型の施設で浄化、高コストの水を長い配管で給水する公共水道は、地震などの災害時には長期間使用不能となり、住民の生命が危険に晒される。これを補完、生活の安全性を高めるためにも、病院、学校、役所、鉄道駅舎、道の駅、高速道路のサービスエリア、バスターミナル、空港など、人の集まる公共性の高い施設には、新たな井戸の掘削と専用水道の設置を認める。更に一步進め義務付けるべきではないか？大量に水を使い地盤沈下を起こした工場は、水の豊富な地方や海外に移転、残った工場も使用済みの水を再処理して使うなど、地盤沈下は昔の話。

大地という天然の濾過施設が浄化してくれた美味しい水を、地下深くから少しだけ汲み上げ、まさかの時に備える必要があるのではないのでしょうか？

◎悠々自適は20年早い！死ぬまで働け！？

12月の頭に晴海のマンションに引越し、6千80万円で買い、17年間住んだ110平米の戸建も2千3百万円でどうにか売れ、1月末には引き渡しも済む。あれがあるから楽勝だろうと周りから言われた、ステージⅢbの大腸がん(殆ど治癒する見込みなし・・・「胃がんと大腸がん」《岩波新書》)で30センチの大腸と引き換えに？ソニー生命の村中君から頂いた生前給付の1千万円の癌保険は海外旅行などで泡と消え、残ったストックを全部はたいても、地下鉄大江戸線勝どき駅徒歩10分、20階建て新築マンションの13階、東南の角、85平米の部屋の代金の半額、2千6百万円余の頭金に足りず。吊れ合いが35年間学校給食の現場で働いて得た、汗と涙の結晶の退職金にまで手をつけ、私の老後資金をどうするのよ！と難詰される羽目に。

●の老後資金はコンクリートに姿を変えてしまったが、残債を差し引かれた上で、どうにかカミさんからの借金は返すことができた。賢い同世代は引退し、悠々自適のセカンドライフを送ろうかという時に、又、ストックゼロから稼ぐ羽目になったと嘆くと、40からサラリーマンを始めて、まともに働き始めたのが俺たちより20年遅いんだから、悠々自適は20年早い！と叱咤激励？の声。80歳まで、17年間の住宅ローンを組んでしまったのだから、死ぬまで働け！ということか？

それにしても、6千万円で買った木造3階の戸建が17年経って2300万円に減価、4千万円組んだローンが7百万円に減額。毎年2百万円ローンを返し、家は同額減価した計算。それが使用価値か？買うのと借りるのと、どちらが得だろうかと考える。ほとんど住まいのために働いて来た感じだ。東京生まれのマスオさんが羨ましい！

忘年会、久しぶり歌舞伎町で飲み、そんなことを考えながら何時ものように靖国通りを歩き、西武新宿線の階段を上り、改札を通る。10時7分の急行まで1分ほどだ、大丈夫間に合う！と考えたところで、ようやく引越したことに気付き、引き返す。南口まで歩き、大江戸線に乗る。明日26日で63歳、呆けてきたかな！ローン完済の80まで生きられるかな？毛沢東と同じ日に生まれたが、日本の毛沢東になれなかった男はつぶやく。

◎ささやかな夢消えかけるも、救いの神現る！

「新居」の抽選で5倍の競争を突破、還暦過ぎの自営業でも住宅金融支援機構(旧住宅金融公庫)のフラット35で80歳までの住宅ローンを組めることになり、勇んで家に帰ると、後から鉄砲玉。ひと思いに死んでくれれば、ローン付帯の団体信用生命保険の死亡保険でリスクがカバーされるからいいけど、脳梗塞なんかで働けなくなったらどうするの？飲んだくれ！ということで、三大成人病にかかったらローンの支払を肩替りする支払補償保険に入るよう、伴侶からきつく言われる。

こんな時に頼りになるのは「戦友」と、慶大共闘ML派、ソニー生命の村中君に、大腸がんも術後7年経ち完治しているから、又、あの保険に入りたいと、二匹目のどじょうの相談。大腸癌の履歴が会社にバッチリ残っているから駄目だよと、つれない返事。交通至便な都心のウォーターフロントの、バリアフリーの新居で老後を送りたいという、●の細やかな夢は潰えそうになる。年を経るといえるのはこういうことか？リスクを取れないし、取って貰えないんだ！革命しよう！なんて大それたことではないのに！と臍をかむ。

それでも諦められず、村中君にどうにかならんかと再度相談。損保の知合いに相談してくれて、所得補償保険で70歳までの引受けが可能になる。月額30万円、2年間の支払い保障で保険料が年額12万円余。保険料は65才以上毎年上がるが、70歳まで大丈夫だという。再度大腸癌になった場合は保険金の支払いは出来ず、別部位の癌の場合も医師の判断が最初の大腸がんからの転移の場合は、以前に罹った癌と因果関係ありとの判断で保険金の支払いはなしだが、可成りカバー出来る。

再度前進と喜び、伴侶に報告すると、71歳からはどうなるのよ！ともっともな質問。再々度、答えに窮する。ここは村中君しかいない、又々相談すると、その時は術後10年過ぎてから、又、生前給付のソニー生命の成人病保険に入れるよと村中君。救いの神が二度現れ、ようやく神様も納得、の細やかな夢がかなう。仲間とゴルフとスキーを楽しみながら体を鍛え、ストレスを発散、80歳まで他人の役に立って対価を頂き、ローンを完済できるか？老人も体を鍛えよう！

◎初滑り、いい湯だが、スキー場が心配

暮れの23日、初スキー。8時過ぎにゆっくり家を出、神保町で友人の車に乗り換え高速へ。道が空いていて、11時半過ぎに水上の奥の宝台樹スキー場のそば屋の駐車場に車を突っ込む。モツ煮と漬物でまずビール。看板婆さんは今年も元気で、鴨南蛮を汁と麺に分けてもらった特製鴨ぜいろと地酒の水芭蕉で喉を潤し、1時過ぎから滑る。3時でスキー場がクローズ、近くの宝川温泉の大露天混浴風呂を楽しんで帰る。筋肉痛もない。

年明け3連休の初日、快晴。冬型気圧配置で雪たっぷりの宝台樹に向かう。事故もあり渋滞、いつもの蕎麦屋が大渋滞とならなければいいかと心配になる。12時過ぎに着いたのに先客は一組だけ。同行の若い女の子2人は鴨セイロ食べただけで飛び出し、年寄3人はゆっくり地酒まで飲み、1時過ぎから滑り始める。この時間、例年なら満席で、立って待つ客もいるのに空席も。稼ぎ時にこれではスキー場も大変だ。メインリフトが4時に終わり、300円の町営温泉に入り帰るが、高速はすいすい。リフトもレストランも、温泉も高速も空いていて、利用する身には都合いいが、サービスを提供する側は大変だ。スキー場がなくなるとも困る。工夫が必要だ。5月の連休まで、同好の士を募ります！

外国人のスキーヤーも見かけるようになったが、外人客を増やすように旅行会社と連携して営業、英、中、韓語の案内を作るとか、若い家族で来ても大人だけで滑れるように託児するとか、地産地消で美味しい田舎料理や地酒を楽しめるようにする、場内に温泉を作る等、魅力を増す工夫が必要ではないか？又、せっかく誘われて初スキーに来て、転んでばかりで面白くなければ、二度と来ようとは思わない。初心者教習は無料にしたらどうか。コストがかかるというなら、貸しスキーやウェアの利用者だけ無料にするのもいい。携帯やゲームに対抗、裾野を広げる工夫が必要だ。夏場のスキー場でラムを放し飼いにして、冬にレストランでジンギスカン料理を食べさせたり、特産のお土産を作ったり、子供と羊の触れ合いの場を作ったりするのもいい。

◎福建紀行（I）

引越し作戦でストックを全部吐き、大枚の新規ローンも背負い、今回は近場のアモイへ。

①外への出口福建へ！

12月30日9時45分発 ANA 便。3日までのトラピクス仲間12名、愉快地にノミネーションできると楽しい。1列6席の中型機の窓際のK席、快晴で外がよく見える。冬の澄んだ瀬戸内海は、海底が段々に綺麗に見える。上海に近づくと紺青の海が粘土色に変わり、揚子江の汚染が凄まじい。上海に差し掛かると上空はスモッグに覆われ、市街が見えず、中国の水処理と大気汚染のひどさが如実だ。「公害先進国」、小宮山前東大総長流に言えば「課題先進国」日本が、隣国を手助け出来るいい機会、ビジネスチャンスでもある。外洋上で機内食が出ると酒食らって寝ちゃうが、アモイまで5時間のフライトが楽しみだ。

前の晩も遅くまで飲み、朝3時起きで荷造り、丁度ホームに滑り込んで来た、朝一番、6時半過ぎのスカイライナーに日暮里から乗る。いつの間にかホームが高架になっていて戸惑う。満席に近いが、空いた席を見つけて座る。成田集合時刻の7時45分ジャスト到着。遅刻常連の●にしては珍しい。

目覚めると飛行機は上海上空だ。思いがけず市街が綺麗に見える、冬場で、しかも師走も30日、工場も操業を休んだところも多いのか？飛行機は上海上空で大きく南に舵を切り、海岸沿いにアモイ目指し南下する。揚子江のつくった沖積平野を過ぎると、海岸から遠くない上空を飛んでいる筈だが、海の気配すらせず、山、又、山だ。国土の大きさの割に山が多く、平地の少ない、平均高度の高い国だということがよく解る。更に内陸深く進むと降水量が少なくなり、砂漠地帯へと連なるのだから、耕地面積割合も少ない。ここに公称13.5億、実際は15億を超えるとされる人間が住む。漢族は昔から人口圧力のままに外へと向かった。その出口の福建へ！アモイへ！

②植民地時代のままのコロンス島

JALは既に就航を止め、全日空も機内食のサービスに日本酒を頼むと、ビジネスクラスと同じものを有料でなら出すという。空の上も「階級社会」だ。そこまでのこだわりはない。仕方なく白ワインを二本飲む。飛行機に引っ張られ、スキーで滑れたら楽しいだろうと思った白く厚い雲の下から、浅く干潟のような粘土色の海が現れ、スモール香港ともいふべきアモイの空港に、家々の屋根を掠めるように150人乗りの全日空機は滑り込む。

空港からバスで港へ。暑からず、寒からずアモイは今が一番いいと、ガイドの程君。その割に空は曇り、肌寒い。二階建ての渡し船で対岸のコロンス島（鼓浪嶼）へ。日本人を母に長崎で生まれ、台湾からオランダを追い出した民族の英雄鄭成功が、明代末ここで兵を鍛えてから栄えた。阿片戦争後共同租界地とされ、イギリス風の坂の多い街に、旧日本領事館等植民地時代の各国の建物が、建築博物館然と軒を連ねる。ホテルやレストランとして綺麗に使われるものがあれば、崩れそうになって窓に洗濯物を干す建物もある。

そんな街を乗合電気自動車が静かに走り、大八車に建材を積んだ男達が汗水垂らし坂道を上る。島には二台の緊急車両以外自動車はなく、電動乗合バスが走るだけ。時はゆっくり流れ、その先に台湾領の島々が霞むが、今は砲撃の音は聞こえない。静寂が時代の変化を告げ、所在なげに屯する土産物屋の女の子の声が、静けさを破る。

③「地酒」でノミネーション

アモイとの橋は作らず、車も走らせず、時間がゆったり流れるコロンス島。あくせく働かず、皆よくお茶してお喋りを楽しみ、長生きするとガイド。長生きでは日本人も負けな

い。一行の最高齢は81歳のお爺さん。娘さんと一緒に、登り坂では遅れるが、頑張って歩き通す。81歳でもこれなら大丈夫と、都心の高層マンションに引っ越して、80歳までの住宅ローンを背負ってしまったばかりの爺さんは考える。

結婚衣裳で路上記念撮影するカップルが何組もいる。カメラマンの他にスタッフが何人もついて本格的だ。写真撮影だけで10万円もすると程君。平均月給6万円ほどのアモイでは大変と、手帳から去年撮った写真を得意気に取り出す。可愛い奥さんだね！皆が感心する。高い料金払っても共稼ぎだからなんとかかなるねという、子育て中で働いてないので大変と、程君。相手は日本語を学んだ華僑大学の先輩だと、流暢な日本語で鼻の下を長くする。渡し船でアモイに戻りホテルへ。北京や上海のようにせちがらくないと言いながら、繁華街にお茶屋が多いけど、店で喫ませる茶と売るのが違う、ただの木の葉の時もある、特に香ばしい楠の葉は要注意だと、程君。

郊外の21階建てホテルの19階の個室で夕食。アモイ料理は薄味の海鮮主体で、味はいい。品数12、3で大体食べ切れる適当な量だ。以前は何処へ行っても次から次へと料理が出て、皿の上に又、皿が並べられるという状態で、勿体ないという思いが強かった。たまにしか「ご馳走」を食べない貧しい時代には、沢山出すのがもてなしだったのだろう、それだけ豊かになったということだろう。

透明の瓶入りの金色の地ビール大ビンが20元(1元15円ほど)。3.1度と軽いが美味しい。中国のビールは総じて度数が低く軽い。最近はどこのレストランでも冷えたビールを出す、時々温いビールが出る時もある。メンバーほとんどがビールを飲み、中華には紹興酒と、さらに5人で8年物200元を2本頼む。中国人は紹興酒を余り飲まないのか？8年物は1本しかなく、250元の10年物も店にはない。2本目は12年物を260円で頼み、割勘にする。飲み助が多く初日から盛り上がる。

④海のシルクロードの起点、華僑の故郷泉州へ

郊外でそんないいホテルではありません。アモイの一般家庭では暖房がないから、ホテルのエアコンも20度以上に上がらず、トイレに紙も一緒に流すと詰まると程君はいうが、部屋の広さ、ダブルのベッドサイズも十分だ。足置付きソファとテーブル、広いデスク、冷蔵庫と湯沸器も完備。エアコンも大丈夫だ。24度に設定する。ついでに紙ごとトイレを流すが大丈夫だ。使用済みペーパーとは同室したくない。洗面も広く綺麗だが、湯船がないのが玉に傷だ。一人で寝るには広過ぎるベッドに8時過ぎに潜り込み、3時過ぎに目を覚ましてシャワーを浴びる。

明るくなってからホテルの周りを散歩する。近代的な高層ビルの林立する都心と違って、中層マンションのベランダは思い思いに鉄格子やサッシの窓が取り付けられ、エアコンが壁から張り出し、雑然と洗濯物が干されている。日本では考えられない風景だ。新しいマンションは違うと程君は言うが、共有と私有、共用と専用使用の区別がはっきりしないのだろう。一階は小さな食堂や店が朝から賑わい、便利店の看板を掲げた雑貨店というか、コンビニもある。ホテルの近くに川がある。色がひどいので、近づいて匂いを嗅ぐ。猛烈に臭い！下水がそのまま垂れ流されている。ここにもビジネスチャンスあり。

アモイから150キロ北上、海のシルクロードの起点、華僑の故郷、泉州へ日帰りツアー。島のアモイと大陸を繋ぐ橋が6本も建設され、広大で壮麗な大学村が広がる対岸の集美区

を起点に、ドイツの技術で省都福州と最高時速 370 キロで結ぶ新幹線を建設中。開通すれば上海とも繋がる。並行する高速道路も片側 2 車線から 4 車線に拡幅中、至る所で工事が続く。リーマンショック以来の公共事業の大判振る舞いで、拍車がかかる。

泉州は人口 7 百万人、福建省一の大都市。陸のシルクロードが砂漠化で衰退、以降海のシルクロードの起点として交易で栄えた。マルコポーロの東方見聞録にも登場。海外との交流が盛んであれば、外の文物も多く入る。宗教も多彩だ。中国十大名刹に数えられる中国を代表するイスラム建築の清浄寺を訪ねるが、中央アジア、中東の絢爛豪華な巨大イスラム寺院を見てしまった●には何とも貧弱だ。比べるべくもない。

海の神様を祀る 1196 年創建、この百年荒れるに任せた天后宮は最近、政府や華僑の援助で再建された。台湾と大陸の信者の盛んな交流の資料を見ると、福建と台湾の結びつきの強さを改めて感じる。北京政府の意向を先取り？客家を媒介に華南と台湾の一体化が進む感を強くする。同時に、神様への思い入れの強さ、期待する現実利益の大きさの割には、総じて日本の名刹に比べると、規模と美しさの点で見劣りする。商売の神様、三國志の関羽を祀る関帝廟も同様だ。日本は参拝に精神的要素が強く、中国は物質的要素が強く、費用対効果、最小の投資で最大の利益を求める傾向が強いからか？線香と金色に印刷された大きなあのお札を焼く煙が絶えない関帝廟だが、物乞いがしつこくまわりつく。

◎違和感あるも、バラ色の中国論を聞く！

2月17日、春節(旧正月)の休暇で一時帰国した、中国で優秀な留学生のリクルートや同窓会を組織する、宮内東大北京事務所長を囲み、駒場の中国語クラス同期会を開催。いつもの、それぞれの近況報告と交歓だけでは勿体ないと、1年先輩の40年入学L I II III E(中国語)クラス同級会に倣い、冒頭、酔っ払う前に、宮内君から最新中国事情と彼の中国観を聞く。

一人っ子政策の影響で、今後中国では日本以上に急速に少子高齢化が進み、豊富な若年労働力人口が経済を急速に成長させる「人口ボーナス効果」が消え、日本ほどに老齢年金などの社会福祉制度が整っていない段階で経済の高度成長が終わるので、社会の不安定要因になるとの指摘が日本では多い。しかし、宮内君は現在55歳から59歳の1949年の社会主義革命後に生まれた1億人、60年代の文化大革命前に生まれた36歳から47歳の3億人、16歳から24歳の革命後世代ジュニア2億人と、三つの団塊人口の山があるので、日本の通説は根拠を欠くと論じる。

又、社会主義革命後の団塊世代では大学卒0.3%、中高卒10%、文革前団塊世代で2.5%と45%、革命後ジュニア世代が25%、50%と高学歴化が進み、2007年で大学数が1867校、学部生1880万人、修士課程97万人、博士課程22万人の在校生を数え、2008年では大学進学者が6百万人を突破した。結果留学生数も増え、アメリカでの博士号取得者上位は1位清華大学、2位が北京大学などと中国の有力大学が軒並み上位を占め、総数1万5千人中5千人。因みに2位がインドで2千2百人、3位が韓国で千5百人、自国の大学院が充実しているとは言え、日本は7位で330人。これだけの高学歴の労働力人口を、これまでの輸出依存型の製造業だけでは吸収出来ず、産業の高度化、金融やサービスなどの経済のサービス化が進むと指摘する。

更にりんごは95年、肉類は2000年、卵は06年と、一人当たり消費量に限度のある肉や果物の一人当り消費量も中国が日本を抜くなど、沿海、内陸を問わず全体の生活レベルの底上げが進むと説く。経済の高度成長の成果は沿海の一握りの富裕層に帰し、貧富の格差が拡大しているという日本の通説にここでも反論。2005年、約7百万台で日本を抜いた中国の自動車販売台数は

09年で千4百万台近くに増え、実際に内陸部でも良く売れ、これからはもっと売れるだろうという。

◎大阪締めで大阪に元気を！・・・第89回三鷹クラブ定例懇談会(大阪)のご案内

講師は大塚清明さん(弁護士・前仙台高検 検事長・昭和39年入寮)。

大塚君との運命的な出会いは、昭和39年2月に大学受験のために宿泊した渋谷の宿所の風呂場。湯槽の中で互いに名を名乗ったのが最初の出会い。私は兵庫県の加古川市から、彼は愛媛県の松山市から受験に上京、宿舎がたまたま同じだった。幸い二人とも合格、4月初めに三鷹寮に入寮すると、彼もいた。当時は、今と違って地方の出身者は寮に入るのが当たり前という時代。授業にも出ずごろごろしていた駒場2年間の入寮中に、大変親しくなった。本郷へ進学すると、申し合わせた訳でないのに、根津と向ヶ丘に構えた下宿が根津神社をはさんですぐ近くだった。

本郷へ進んでから司法試験を目指そうかということになり、受験勉強を親しい四人の仲間で行ったが、現役でパスしたのは一人だけ。大塚君と私は落ちた。翌年9月に幸い二人とも合格したが、6月の大学の卒業がまたまた大変だった。例の東大紛争で、卒業試験の代わりに自由な題を選んでレポートを提出することになった。大塚君は弁護士志望ながら刑事が好き、私は弁護士志望で民事が好きだったから、それぞれが得手の分野のレポートを作り、他方が拝借、多少アレンジして提出した。しばらくすると、政治学の辻清明教授(大塚君と同名)、民事訴訟法の三日月章教授などから呼び出しがあり、「君と大塚君のレポートは、言い回しを別にすると大変よく似ているがどういう次第か」との詰問。私は、「折角司法試験に合格したのに、ここで落第させられるとさらに親に迷惑を掛けることになる」と事情を打ち明け、どの教授からもお情けで「可」を貰い、揃って無事大学を卒業した。司法研修所に入るとまたまたクラスが一緒となり、研修所の寮も同じとなった。

昭和46年に揃って研修所を卒業、弁護士志望から転向した彼は、検事となって全国各地の検察庁を回った。現場が何よりも好きで常に第一線に立ち、政治的な思惑を嫌い、不正を許さない一途な性格から捜査一筋の道を歩んできた。うまく立ち回ることができず、うまく立ち回ろうなどということを考えない人柄である。

それから37年を経て、どちらから誘ったということもなく自然の成り行きで、仙台高検の検事長を定年退官した平成20年に、私達の事務所に客員弁護士として迎えた。そこには、かつて四人で勉強をし先に合格した益田哲生弁護士も一緒に、三人が揃った。これからは死ぬまで一緒である。(昭和39年入寮・荒尾 幸三)

※最近の政治資金疑惑なども含め、「特捜」事件の背景や実態、感想についても、うかがうことが出来ればと思います。

日 時：平成22年3月16日(火) 18時30分～21時

場 所：大阪弥生会館(大阪市北区芝田2丁目4番53号 電話 06-6373-1841)

会 費：5000円(会場費・夕食代・ビール代・通信費など)

申込先：平賀俊行・干場革治 Fax 03-5689-8192 電話 03-5689-8182

有限会社ティエフネットワーク Email: tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

◎1月14日、事務所新年会に留学生も参加

三鷹寮の諸君を事務所に招き、新年会。辰紘先輩(S40年入寮)、井上豊君(S43年入寮)にも参加して頂く。まだ18歳の寮生もいるので、と年の差45歳、下手すると孫と言ってもおかしくない学生諸君を、いつものようにおでんとピザ、寿司などでもて

なし、談論風発する。

参加メンバーは甲斐 貴之（2009年入学・理Ⅱ・熊本高校）、奥田 哲矢（2009年入学・工学部修士・大阪教育大附属池田高校）、竹山 美奈子（2008年入学・文Ⅲ・文学部・甲南高校（鹿児島））、田部 淳 ウィリアム（2009年入学・文Ⅰ・仙台第二）、満重 佑輔（2008年入学・理Ⅰ 理学部・鶴丸）、孫 峻祐（2004年入学・AIKOM（交換留学生）・ソウル）、楊 蕊（AIKOM・北京大学）、呉 迪（AIKOM・南京大学）、SARAH ALAINN（サラ オレイン・AIKOM・Sydney）、宮本 洋之（2008年入学・文Ⅰ・法・洛南）。

留学生も混じって交流の場に。二度の寮の音楽祭で活躍したサラは日本で音楽活動を開始するなど、多彩なネットワークがグローバルに形成されるきっかけになると嬉しい。ウッドプラスチックや電源開発のウオータービジネスがグローバルに展開されるようになった時、世界中の出張先で、三鷹寮の同窓会が出来ると楽しい！

◎院生と新年会・・・留学生のパワーに押され！

2週間後、今度は三鷹寮の院生会の諸君と、趣向を変えて歌舞伎町の居酒屋で新年会。メンバーは奥田哲矢（前出）、榎崎 弘二（2009年入学・総合文化・福岡筑前高校）、千葉 優作（2003年入学・理学部数学科・秋田）、足利 純（2009年入学・総合文化・仙台二高）、松沢早希（2008年入学・文Ⅱ・教養学部地域文化アメリカ文科・土浦一高）。

席上、就職活動でも留学生に負けると院生。留学生は母国語と英語、日本語の三ヶ国語を話し、ハングリー精神もあるのに、日本人学生は2ヶ国語しか話せず大人しいので、外資系は勿論、海外ビジネスを展開している日本の会社でも負けるんですと、心細いことを言う。せっかく三分の一が留学生の寮に住んでいるのだから、刺激を受けて頑張っって欲しい。

◎新寮計画スタート

定員四百人の新棟建築計画が進み、独立行政法人化で厚生施設にお金を使いにくくなった大学から、三鷹クラブにも資金協力の話が来ています。三鷹クラブ単独で億円単位の資金協力は難しいかとも思います。又、自治寮の三鷹寮と駒場寮を廃寮した上で、二つの寮を併せた駒場の学生のための寮として、新しい三鷹寮がスタートしたので、駒場寮OBを含めた支援組織を作らべきと、大学には提案しています。関係者の皆さんにはその節はご協力をお願い致します。

◎終わりに・・・アマダイ事務所アシスタント募集！

週2、3日、10時から5時（昼食時休憩1時間）、時給1050円で1日6300円、交通費実費支給。電話対応、ワード、エクセルができるアルバイトを探しています。（再見！）